

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300743		
法人名	社会福祉法人心愛会		
事業所名	ハーモニーみどりが丘ソレイユ		
所在地	福島県郡山市緑ヶ丘東6丁目26番地1		
自己評価作成日	令和3年1月23日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年3月2日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街に位置し近くには幼稚園、小中学校、郵便局、コンビニエンスストア、スーパー、外食店舗、などがあり恵まれた生活環境です。事業所内は行事で作成した作品が室内に飾ってあり四季を感じられる工夫をしております。下肢筋力の低下を防ぐための歩行運動、又、お客様に楽しんでいただけるようなレク活動等を実施、趣味活動や掃除や洗濯、調理等の家事など個々に役割を持っていただき「できること」への支援にも取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. コロナ禍により家族面会が窓越しやリモート・電話となっているため、毎月利用者の日常を描いたお便りやスナップ写真を送るほかに、家族に利用者の生活状況を理解していただくため日常生活をDVDにして送付し、好評を得ている。  
 2. 訪問診療医からコロナ対策のアドバイスを得、玄関先での検温や手指消毒・うがいのほかに、靴底を消毒して室内用スリッパへの履き替え、リビング入口にビニールカーテンを取り付けるなど、事業所内へ細菌を入れないよう徹底した感染対策に取り組み、利用者と家族の安心・安全を図っている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時法人理念の手帳が配布され、法人で理念に対する研修を全職員対象に行っている。 事業所では申し送り、職員会議、カンファレンス等に事業所理念の唱和を実施し浸透を図っている。	法人理念を基に事業所理念を作成し、年度末に職員会議で見直しをしている。理念は、申し送り・職員会議・カンファレンスで唱和し、廊下へ掲示して共通理解のもと実践へ繋げている。また、法人で理念の行動基準・判断尺度を記した手帳を配布し、職員は年1回理念についての研修を受けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等はコロナ感染予防のため中止となり参加はできていないが事業所に来てくださるボランティアさん達より楽しめるDVDなど送られてきており関係性は続いている。	隣接する法人本部が町内会へ参加し、地域と防災協定を結んでいる。そば打ち愛好会・フラダンス・中高校生合唱部・語り部などのボランティア訪問を受け入れている。現在コロナ禍で自粛中のため、語り部ボランティアから地元民話のDVDが送付され、交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや、東部中田地区にある事業所との協力のもと開催していたオレンジカフェの開催は中止となってしまっているが地域住民に向けて認知症予防通信を配布した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ禍で運営推進会議を開催できない月があったが運営状況等郵送で推進委員に送付しており必要時助言をいただいたりサービスの向上に努めている。	定期的で開催しているが、コロナ禍により書面開催も行っている。資料を委員と家族へ送付し、電話で意見を聞き取っている。委員から、積極的に質問や高齢者関係の情報を求められ活発な意見交換をし、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染予防のため介護相談員の派遣が中止となっている。行政とは必要時随時相談、情報を共有している。	管理者は、介護保険に関する相談等で市担当課へ出向いているが、コロナ禍で会議開催や介護相談員の派遣が自粛されている。市担当課から入居や困難事例の相談を電話で受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し年四回「虐待・不適切ケアチェックリストアンケート」を行い職員会議で振り返りを行っている。又、委員会で啓発ポスターを作成し日々のケアを見直せるようにしている。	指針に基づき身体拘束廃止委員会を毎月開催している。虐待・不適切ケアチェックリストを年4回実施し、会議で行動改善に向けて話し合っている。啓発ポスターを作成し、事務室壁・コピー機前・ファイルの見開きなど、職員が目につく所へ貼り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年4回アンケートを行う中で問題になることについては職員会議で話し合い虐待がないか注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修を行っている。必要時活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行う際不明な点がないように確認している。質問は契約時だけでなく随時対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中でお客様の意見や要望は把握している。年1回家族様にアンケートを行い意見、苦情、要望を把握し運営に反映させている。	家族からは電話時や年1回の家族満足度アンケートで意見・要望の把握に努めている。家族より、コロナ禍での利用者との窓越しでの面会や電話対応の解除要望があるが、やむを得ず理解をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の前にアンケートを配布し意見を収集したりカンファレンス、個別面談を通し要望を聞き運営や職場改善に反映させている。	交代勤務により職員全員の会議出席が難しいので、職員に事前にアンケートを配布し意見を出してもらっている。出された意見を議題にして協議し、欠席者へは後日確認している。また、管理者は年3~4回職員面接を行い、意見・要望等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格取得の取り組みを行い給料水準に反せさせている。又目標管理シートを作成してもらい本人のやりたいことに向けた支援も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の参加は難しいが法人内研修や施設内研修に参加できる機会を作りスキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内研修、介護技術コンクール、取り組みの発表など働く仲間との交流、意見を交換する場があり意識を向上させる機会がある		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時本人様の困りごとや、要望などをよく聞きケアプランに反映させ安心してサービスが受けられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時ご家族の困りごとや、要望などをよく聞きケアプランに反映させ安心してサービスが受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族より聞き取りを行った際最も必要とされる支援を見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にあった役割を持っていただくことにより、ともに過ごす関係性はきずかれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で情報共有を行いながら支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防対策のため長時間での面会ができないが窓越し面会や希望があればリモートでの面会もおこなっている	入居時、家族から情報を収集し、馴染みの理髪店やかかりつけ医への通院時に家族協力で希望する場所へのドライブなどを支援している。また、事業所では、コロナ禍で家族面会が思うように出来ないことから、生活の様子をDVDにして送付し、関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルに座っていた だいている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時、ご家族や本人様、他事業所に情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様と日頃の会話の中から意向を聞き取りサービス内容に反映させている。	日々の関わりやふとした時の一言にも留意し聞き逃さないように努め、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は家族と相談し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前の初回アセスメント時本人様ご家族からの聞き取りを行っている。又日々の支援のなかで知り得たことは連絡ノートに記載し職員が情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行いできることへの支援を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や個別カンファレンスを開催ケアプランは変化に応じ見直している。	入居時に1か月分の介護計画を作成し、その後3か月を目途に見直しをしている。担当職員がカンファレンス資料を作成し、アセスメントやモニタリングを重ね、チームで介護計画を見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、GH連絡ノート日誌に記載されている情報を共有し、よりよいケアができるようにプランを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のニーズに合った柔軟な支援ができるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	充実した援助内容ができるように地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族の希望に沿った医師を受診している。事業所内で訪問診療を受けている方もいる。	入居時、かかりつけ医か訪問診療医を選択してもらい、かかりつけ医受診時は「生活状況報告シート」を作成し家族へ託し、受診後報告を得ている。訪問診療医の場合は、家族へ直接電話で診療結果を報告してくれる。緊急時は「緊急時対応フローチャート」に沿って対応し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気になることは担当医師や看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供、電話での状況確認を行い情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時意向を確認している。 重度化した場合医師を含めご家族と話す機会を持ち事業所のできることを理解していただいている。	入居時に重度化・看取り指針を説明し、同意を得ている。また、看取り時期に、主治医・家族・事業所で話し合いをもち、意向を確認している。職員と併設事業所の看護師が連携しチームで取り組み、看取り後は振り返りをし、次へ活かす取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で救命講習を開催しており冷静に対応できるように訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画の沿って自主的訓練を行っている。 地域と防災協定を結んでいる。 災害に備えて食料や水の備蓄がある。	年間計画に基づいて、総合防災訓練を行っている。運営推進会議委員と連携を図り、地域と防災協定を結んでいる。備蓄は、食料が入っている「非常食3日間満足セット」・ヘルメット・非常用品の入っているナップサックがある。	夜間を想定した避難訓練も回数を重ね、全職員が利用者を安全に誘導できるよう検討してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年4回アンケートを行う中で問題になることについては職員会議で話し合い虐待がないか確認している。意識づけのため事業所内で啓発ポスターを張り出している。	利用者が、人生の中で培ってきた知識や経験を理解するように努めている。年4回実施する虐待・不適切ケアチェックリストの結果をもとに改善策を会議で話し合い、利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉掛けや態度に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択するような場面ではお客様本人が行えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人様のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や、馴染みの理容店が来訪。本人が希望する髪型など相談しながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜作り、収穫、調理の下ごしらえ、味噌汁づくり等できる範囲内の協力をいただいている。	「出来ることへの支援」を目標に利用者の経験を活かし、利用者と共に調理の下ごしらえや味噌汁作りを行っている。また、事業所の畑で収穫した野菜を味わい出来栄えなど話題にしている。干し柿や漬物づくりも利用者の経験を活かしてもらい、おやつや食事で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	アセスメントを通しご本人の能力に合わせた食事形態を検討している。食事がとれない場合などご家族に相談し好きな物など持参いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を活用しうがいや歯磨き等に支援をし清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様の排泄パターンに合わせた声掛けにより日中はトイレ案内を行っている。夜間は状態に合わせた支援を行っている。	利用者の排泄パターンや表情、仕草からタイミングを把握しトイレへ誘導している。利用者のプライバシー・羞恥心に配慮した声掛けを行い、トイレでの自立排泄が継続・維持出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分ゼリー、オリゴ糖、ヨーグルト等を提供便秘時に腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の状態、体調配慮し本人の意向にあった入浴を支援している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の体調や希望に沿って支援している。入浴中は、利用者との会話を楽しむよう努め、みかん・りんご湯等で季節感を感じながら、ゆったりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の生活習慣にあった起床時間や就寝時間を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルが作成してありわからない時は確認している。薬の追加や変更があった場合状態など記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしが楽しみや張り合いになるように生活歴を把握しその方にあった役割や、趣味活動ができるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり外出支援がなかなかできない状況であったが天気の良い畑作業や中庭で近隣に住む方との交流はある。(サ高住)	年間の行事計画を立て、花見や紅葉見学等に出掛け季節感を肌で感じていただいていたが、今年度はコロナ禍により控えている。天気の良い日に事業所の庭の散歩や畑作業、近くの公園への散歩のほか、法人職員の音楽療法等で気分転換をし、ストレス解消に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止のため事業所への持ち込みはご遠慮いただいている。急な場合事業所でたてかえをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には行事で作成した作品を飾っている 部屋は寒暖差に気を付けエアコンの管理を職員が行っている。	リビングは、利用者と共に製作した壁一面大のお雛様の貼り絵を飾り、廊下には花の貼り絵や習字を掲示している。また、ベッドを置き、利用者が休憩場所としてのんびり休んだり腰掛けたりしている。職員が温湿度の管理と1日2回の換気を行い、感染予防対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うお客様同士で過ごせるように席の配慮を工夫している パーテーションを設置しておりくつろげる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家具、家族写真、位牌、テレビ等持参され配置は本人様やご家族にお願いしている	居室には、ベッドとエアコンを準備し、使い慣れたテレビ・タンス・衣装ケース・加湿器等を自由に持ち込んでいる。置物や家族写真を飾り、配偶者の遺影写真を置いている方もおり、その人らしく暮らせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にネームプレートを貼り自分の部屋として認識できるようにしている(トイレも同様)		